



お出かけスポットに ミタッチミ

高取焼大茶会

高取焼発祥の地である直方をPRするため毎年4月頃に商店街で行われるイベント。空き店舗や路上に茶席が設けられ、それぞれ茶席によって異なる茶菓子とお茶を楽しめます。当日は、福岡県無形民俗文化財の直方日若踊りや植木三串踊りが披露されるほか、高取焼陶芸体験、市内陶芸家の作品展示、ご当地グルメ焼きスパの販売なども行われます。



金剛山もととりあじさい園

市が所有する里山を地元市民団体「金剛山もととり保全協議会」が整備運営。山ろくに咲く、色とりどりのあじさいに心奪われます。例年6月中旬から7月上旬にかけて約3400株のあじさいが見ごろを迎え、あじさい祭りが開催されます。



福智山ろく花公園

2万本のスイセンや種類豊富なユリ、あじさい、紅葉など四季折々の花が咲き誇ります。芝生広場やアスレチック施設も完備し、季節ごとにイベントも催され、子どもから大人までたっぷり楽しめます。



サイクリングロード

令和元年11月「直方北九州自転車道」が全線開通しました。すでに開通している「飯塚直方自転車道」と合わせると全長47.3キロメートルものサイクリングロードになります。また、遠賀宗像自転車道にも繋がっています。車の危険を感じず安全に、自然を楽しみながら、サイクリングを楽しむことができます。



オートキャンプ場

福智山と遠賀川の雄大な景色の中、街なかで気軽にキャンプが楽しめます。



直方夏まつり、直方山笠

約6000発の花火と約1キロに及ぶナイアガラが夜空を飾り、水面を彩る花火大会は、見ごたえ抜群。打ち上げ場所と観覧席が近く、臨場感たっぷりです。同日、追い山笠も行われ、夏まつりをより一層盛り上げます。



福智山

標高901メートル。福智山山系の主峰で、林野庁「水源の森百選」に選ばれた豊かな森林があり、山頂からの360度の眺望や滝など見どころいっぱい。野鳥の宝庫でバードウォッチングも満喫できます。



のおがたチューリップフェア

毎年、4月上旬に開催される直方を代表するイベント。色とりどりの様々な品種のチューリップが遠賀川の河川敷を彩ります。満開の桜や菜の花、遠くに望む福智山と一緒に、直方の春を盛り上げます。期間中は土日を中心に、20万人以上の人で賑わいます。



自慢の品に ミタッチミ

直方B級グルメ 焼きスパ

1軒の喫茶店で学生の味として愛された青春の味。閉店後、幻の味となっていたが、直方のB級グルメ募集で、多数の声が寄せられ、復活。公式認定を受けた市内の複数飲食店で提供中。

- 1. パスタ麺を使う
- 2. キャベツ・タマネギ・豚肉を入れる
- 3. トマトケチャップベースのソース味
- 4. 麺や具材を焼く



米

米は総農地面積の約3分の2で生産されている直方の主力農産物です。各地域でオリジナル米を作るなど、力を入れています。



直方銘菓 成金饅頭

石炭産業が栄えていた明治の末、直方である人が日露戦争に乗じた豆の投機に失敗し、余った大量のうすら豆の処分に困り、餡をたくさん使った饅頭にして売ったのが「成金饅頭」の始まりと言われています。直方の炭鉱王・貝島太助もお気に入りだったという豪快な饅頭。最大のものは直径26cm、重さ約3kg。



せんべい

全国のお店や通販でおなじみの「もち吉」。創業80年以上の会社が作るおせんべいは職人技が生み出す一枚。



はちみつ

いちごの栽培がさかんな直方では、受粉の際にミツバチは欠かせない存在です。養蜂家はミツバチを育てて蜜を探取したり、いちご農家に蜂を貸出したりしています。直方市周辺の花から採れる百花蜜(さまざまな花から集められたはちみつ)は、質感がなめらかで、甘さはスッキリとしていて、澄んだ黄金色。上品なコクがあり、クセの少ないレンゲのはちみつも取れます。



野菜、果物

雄大な自然の中の肥沃な土壤で育った、アスパラ、キャベツ、トマト、ブロッコリーなどのさまざまな野菜や、梨、ぶどう、いちじくなどの果物を、直売所で手に取ってみてください。

染物

明治43年から続くひしや染物店では、のれんや手ぬぐい、はっぴなどオーダーメイドで一品一品を手作業で仕上げています。



陶芸

高取焼発祥の地直方には、陶芸の窯元が点在しています。伝統の技術を受け継ぐものから枠にとらわれない技法を取り入れたものまで、いろいろな作品を目にすることができます。



木工芸

木工芸河匠(かわしうわ)は、県内唯一の木工芸・日本工芸会正会員。木目を活かした漆器は、まさに伝統工芸の熟練の技です。



カレー焼き

直方で50年以上続く市民のソウルフード。昔ながらのもっちり生地の中にはこだわりの野菜を何時間も煮込んで、最大限に甘みを引き出したカレーが詰まっています。

いちご

大粒で濃い甘みの「あまおう」は、1農家あたりの栽培面積が県内随一。